

エコツーリズム大賞



■ 主催者のことば

第3回エコツーリズム大賞の実施にあたって 1

■ 審査委員長講評

「第3回エコツーリズム大賞」の選考を終えて 1

第3回エコツーリズム大賞の概要 2

大賞受賞者の紹介 3

優秀賞受賞者の紹介 4

特別賞受賞者の紹介 6

応募団体一覧 8

第3回エコツーリズム大賞の実施にあたって

環境省自然環境局総務課自然ふれあい推進室長 岡本光之



本年は、エコツーリズム推進法が議員立法により成立し施行される記念すべき年です（平成19年6月公布、20年4月施行予定）。

本法律は、地域ぐるみの取組により、自然環境やそれと密接に関わる伝統的な生活文化などを保全しつつ活用するための総合的な枠組みを定めたものです。

エコツーリズムという言葉は、従来から環境白書や観光白書、生物多様性国家戦略など、政府が決定する文書やエコツーリズム大賞をはじめとする各種施策には使われてきましたが、法律用語としては初めて位置づけられました。

このような状況の中、第3回大賞の募集を開始し、取組をされていらっしゃる事業者や、NPO、地域団体などの意欲的な活動の応募がありました。

現在、エコツーリズム推進法に基づく「基本方針」の策定に向けた作業を行っているところですが、この中の議論で、エコツーリズムを推進する意義について、大きくは次の3つに整理することが検討会により提言されています。

1) ルールの設定による自然環境の保全と旅行者や住民などの環境意識が高まり地域の環境から地球環境

まで含めた保全に関する行動につながる効果、
2) 地域固有の自然環境や生活文化等の魅力を見直す効果、
3) 観光地としての競争力の向上・新たな観光振興の可能性などに加え持続的な地域づくりに対する意識の高まりや住民の誇りにつながる効果。

また、エコツーリズムを推進する上で、「大切にしながら」「楽しみながら」「地域が主体」の3つの視点が基本であることも提言されました。

今回の大賞募集時や審査時には、まだ、この提言が示されていませんでしたが、受賞された団体については、このような内容を何らかの形で先取りされているものと思います。

その他の応募団体の取組内容を見ても、地域の牽引者としてまたは各地域の参考情報として、立派な活動が多々あります。今後、エコツーリズムを全国で推進していく上で、地域の状況に合わせた各地の創意工夫を発信していくことが重要であり、今回、惜しくも受賞されなかった団体もさらに磨きをかけながら、次回以降もぜひ応募して下さることを期待しています。

審査委員長 講評

「第3回エコツーリズム大賞」の選考を終えて

東京大学大学院農学生命科学研究科教授 下村 彰男



エコツーリズム大賞も3回を数えることになりました。短期間の募集にもかかわらず64の組織からの応募があり、エコツーリズムそしてこのエコツーリズム大賞も徐々に関心をもたれるようになってきたように思います。

今回、より多くの方々に応募してもらうことを目的として募集要領を変更しました。一番大きな変更点は、取組分野を明確に提示したことです。「ガイドンスの手法」「環境保全の取組」「地域活性化の取組」「その他の取組」の4分野を明示し、応募に際して取組分野を特定してもらうようにしました。同時に、「大賞」は総合的に優れた取組、「特別賞」は萌芽的もしくは特定の分野での優れた取組などと、「賞」の性格づけも明示しました。特定の分野を中心とした取組であっても、ユニークで優れた活動を実施している組織は表彰しようという主旨です。最初から複合的な活動をバランスよく展開することは容易なことではありません。得意な分野での展開で実績を重ね、徐々に複合的、総合的な展開へと枠組みを広げていくことも自然な流れであろうということで、応募分野を分けたわけです。と

ころが実際に応募された組織の取組分野を見ますと、単独の分野での取組は少数で、大半が複数の分野で活動されているようです。分野を分けたことによって、かえって社会が複合的な取組を求めていることを実感させられました。

また今回は、平成16年度からのエコツーリズム推進事業のモデル地域として選定され活動展開してきた地域における中心的な活動組織が応募し、表象されるケースが出てきました。従来から関連した活動をしてきた組織や地域が、モデル事業を通して明確な戦略性を持つて的確に活動を始め、エコツーリズムとしての実績と形を整えてきたことで、他団体より一日の長が見られた結果と言えます。審査過程では「さすがにモデル事業」ということを実感しました。

このように第3回の審査では、エコツーリズムに対する認識や理解が徐々に浸透してきていることを感じました。今回応募していただいた組織はもちろんのこと、全国で活動されている様々な組織の今後の活動展開を期待させる審査であったと考えています。

第3回エコツーリズム大賞 概要

大賞の趣旨

エコツーリズムに取り組む個人、事業者、団体、自治体などを対象に、優れた取り組みを表彰し、広く紹介するもので、全国のエコツーリズムに関連する活動の質的・量的向上並びに、情報交換等による関係者の連帯感の醸成を図ることを目的とします。

受賞者一覧

大賞

認定特定非営利活動法人 霧多布湿原トラスト
エコツーリズムによるまちづくり

優秀賞

いしかわ自然学校

白山のてっぺんから、森も、里山も、川も、日本海の中まで

海島遊民くらぶ（有限会社 オズ）

「素敵な自分を発見する島の旅」をコンセプトに
漁村の生活文化とそれを取り巻く自然をガイド

させぼパール・シー 株式会社

“ココだけのエコツーリズム、ココロの中にいつもエコを……”

特別賞

体験村・たのはた推進協議会

村の営みが観光資源！通過型から滞在型観光へ

二戸市楽しく美しいまちづくり推進委員会

宝とともに生きる二戸のまちづくり

裏磐梯エコツーリズム協会

子に孫に残そう 豊かな おらがむら

有限会社 リポーン（エコツーリズム・ネットワーク）

旅のプロデューサーがライフスタイルを提案

高山市乗鞍山麓五色ヶ原の森

飛騨人の心で、五色ヶ原の雄大な森をご案内

針江生水の郷委員会

人と水が共生する「川端（かばた）」のある暮らし

第3回エコツーリズム大賞の経緯

- 2007.8.24 公募開始
- 2007.10.4 応募締め切り。64件の応募
- 2007.10.15 審査委員会開催。大賞1点、優秀賞3点、特別賞6点を選定
- 2007.11.9 受賞者の公表
- 2007.11.18 表彰式
(エコツーリズムシンポジウム
兵庫県神戸市にて開催)



大賞授与



受賞者一同

審査委員会

- | | |
|--------|---------------------------------|
| 審査委員長 | |
| 下村 彰男 | 東京大学大学院農学生命科学研究科教授 |
| 奥山 隆哉 | 社団法人 日本旅行業協会理事・事務局長 |
| 海津 ゆりえ | 特定非営利活動法人 日本エコツーリズム協会理事 |
| 桜井 義維英 | 特定非営利活動法人 自然体験活動推進協議会理事 |
| 佐藤 博泰 | 松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ学科
学科長・教授 |



認定特定非営利活動法人 霧多布湿原トラスト エコツーリズムによるまちづくり

北海道厚岸郡浜中町

講評

ナショナルトラスト活動という形で地域の環境保全から始まった取り組みが、エコツアーや地域貢献活動との連携により、エコツーリズムとしてより深く、より大きく展開している姿勢が評価される。

湿原の保全活動とガイダンスを結びつけ、かつ漁師や酪農家など地元の生業と連携したエコツアーを実施している。生態系調査では、地元小中学校の総合学習の活動にも連動させ、安定した活動を継続している。これまでの活動に加え、今年度は、地元の食材を使った「ワンディシェフ」というプログラムにより地元（特に主婦層）への還元を図ったり、地域と都市部を結ぶ自然保護の試みとして、東京都多摩動物公園とのパートナーシップ協定を結ぶなど、さらに活動の幅を広げている点も評価される。



応募の概要



霧多布湿原の保全を、ナショナルトラスト活動とエコツアーを繋げながら行っている。地元の漁師や酪農家による「暮らしから学ぶツアー」に加え、今年からは地元の主婦層による「ワンディシェフ」や東京都多摩動物公園とのパートナーシップ協定も始めている。

受賞の言葉

20年以上前に、自分達の町のこと、子どもの頃のこと、湿原のことについて、地域の若者数人が集まって話を始めたのが活動のきっかけでした。一歩ずつ着実に活動を進めてきましたが、この度のエコツーリズム大賞という評価を頂いたことを、大変光栄に思います。自然保護には様々な要素がありますが、地域の魅力を活かし、観光と保全の両立を図るエコツーリズムは、今では私達の活動に欠かせないものとなりました。北海道の一番東に位置し、人口7000人のこの町が、持続可能で元気に発展していくために、これからもエコツーリズムの先進事例となるよう、地域を大切に活動を行っていききたいと思います。



活動内容

ナショナルトラストによる霧多布湿原民有地の買い取り、自然環境の保全と復元、ファンづくりの3つを活動の柱にしています。ファンづくりの一環として霧多布湿原と、漁業・酪農という優れた一次産業をベースとしたエコツアーを開催し、まちづくりのツールとしてエコツーリズムを発展させてきました。また、子ども達への環境教育、地域の工芸品や産物を扱ったアンテナショップの運営などを行っています。近年では企業とのパートナーシップや都市部に暮らす人々からの支援を受け、自然保護と地域振興のシステム作りに取り組んでいます。



組織の沿革

代表者名：三膳時子
設立：1986年
所属人数：13名

連絡先

霧多布湿原トラスト
〒088-1531 北海道厚岸郡浜中町仲の浜 122
TEL：0153-62-4600
E-mail：kwt@topaz.ocn.ne.jp
Web：http://www1.ocn.ne.jp/~wetlands/

霧多布湿原センター

〒088-1304 北海道厚岸郡浜中町 4 番沢 20 番地
TEL：0153-65-2779
E-mail：center@kiritappu.or.jp
Web：http://www.kiritappu.or.jp/center/

優秀賞

いしかわ自然学校

石川県金沢市

白山のてっぺんから、森も、里山も、川も、
日本海の中まで

講評

ネットワーク型の取り組みで、数多くの団体が関与しているため、全体としてバランスの良い総合的な支援型組織になっている点が評価される。

全県的な組織として体制がしっかりしており、明確な方向性を示しつつ、大きな影響力を有した動きになっている。自然学校としての人材育成、プログラムづくりに歴史および実績があり、各種マニュアルやガイドラインの整備により、プログラムの品質担保に大きく貢献している。

応募の概要

平成13年に開校した全国初のネットワーク型の自然学校で、約50の団体が、石川県の自然や施設を利用しながら、約380本、延べ930日に及ぶ自然体験プログラムを提供し、人材育成にも取り組んでいる。



活動内容

いしかわ自然学校とは、ひとつの施設や事業名ではありません。行政、NPO、民間事業者などが広くネットワークを組むパートナーシップ型の自然学校です。石川全域4185km²をフィールドに、気軽に数時間で体験できるものから、宿泊をともなうもの、有料のもの、無料のもの、数多くのプログラムをお子さまから大人までが楽しんで参加しています。プログラム開発にも力を注いでいます。2007年10月には、茅葺き古民家「夕日寺里山ふるさと館」がオープンし里山型エコツアーの拠点として期待されています。新たなプロジェクトも始まります。海女の島として知られる絶海の孤島「舳倉島（へぐらじま）」にエコツアーを導入するもので、2008年夏にお目見えの予定です。

組織の沿革

代表者名：石川県知事 谷本正憲
設立：2000年
所属人数：事務局職員2名、
所属指導者800名、
所属団体約50団体

連絡先

〒920-0962 石川県金沢市広坂2丁目1番地1号
石川県広坂庁舎（いしかわ自然学校事務局）
TEL：076-232-3991
E-mail：staff@i-shizengakko.net
Web：http://www.pref.ishikawa.jp/shizengakkou/

優秀賞

かいとうゆうみん 海島遊民くらぶ（有限会社オズ）

三重県鳥羽市

「素敵な自分を発見する島の旅」をコンセプトに
漁村の生活文化とそれを取り巻く自然をガイド

講評

昨年度の特別賞受賞より、さらに活動に広がりが見られ、全体的にバランスの良い成長が評価される。地元の漁師や旅館の若女将などの宿泊関係者が、共同でエコツアーに協力参加するスタイルは、今後、他地域へのモデルになることが期待される。また、ユニークな自主ルールを他団体と共有化し、エコツーリズムを基本理念にしたインフォメーションセンターを創設するなど、個別の点としての活動から、線あるいは面を意識した活動への進展が評価される。



応募の概要

島民や地元住民への気配りをガイドングに組み込みながら、地元の人々と積極的に交流し、地域の魅力を十分に発揮できるように心がけられたエコツアー。今年からは、自主ルールの共有化を他団体とも始め、エコツーリズム推進に向けてインフォメーションセンターを設立している。

活動内容

海島遊民くらは、プログラムに自然・歴史、伝統、生活文化・食(地産地消)の要素を入れ、可能な限り地元住民と交流し、地域の魅力が十分に発揮できるような温かみのあるツアーに仕上げています。そのため、ツアー企画や実施には地元住民と事業者(他の観光事業者も含め)、漁協、行政の参加・協力無しには成り立ちません。民間の企業である限り、この協力関係は一方のものでは持続できなくなってしまう可能性があるため、必ず双方に価値と満足を共有出来るパートナーシップ形成の為に還元システムを構築しています。また、昨年6月より鳥羽若女将うめの蓄会と共同で事務所を開設し、インフォメーションセンターとして一般に開放しています。その主要な目的は、エコツーリズムという概念から生まれたエコツアー会社と既存の観光の代表である宿泊施設経営者がともにエコツーリズムを推進する拠点とし、エコツーリズムの認知度を上げることにあります。

組織の沿革

代表者名：江崎 貴久
設立： 2000年
所属人数：12名

連絡先

〒517-0011 三重県鳥羽市鳥羽1丁目4-53
TEL：0599-28-0001
E-mail：kurage@oz-group.jp
Web：http://oz-group.jp/



優秀賞

させぼパール・シー 株式会社

長崎県佐世保市

“ココだけのエコツーリズム、ココロの中にいつもエコを……”

講評

一民間企業の取り組みとしては、環境保全や地域活性化への配慮がよくなされており、地域の自然環境や社会を資源として、継続的に経営されていることが評価される。環境省のモデル事業終了後も、事業体としてエコツーリズムの普及に努められ、ボランティアガイドの研修などを定期的に行っている。特に、地域の自然環境に関する調査や研究を継続的に実施し、それを保全活動やガイドランスへ応用する姿勢は、高く評価される。



応募の概要

エコツアーに活用する海域を調査・研究し、自然環境の保護を前提に、絶滅危惧種等が生息する貴重な地域であることにも触れながら、プログラムを実施している。さらに漁業従事者との連携を図り生活環境への配慮も欠かさず、ボランティアガイドの研修等も行っている。

活動内容

当社は、平成16年に環境省より「国立公園等エコツーリズム推進モデル事業」の支援機関として指定を受け、「させぼエコツーリズム」の推進に携わってきました。平成19年4月より、「ココエコ」(ココだけのエコツーリズム・ココロの中にいつもエコを…)を合言葉に、本格的な取り組みを始め、多様化するニーズに即応したプログラム開発・実施、ガイドランスの充実、ボランティアガイドの育成、西海国立公園九十九島(くじゅうくしま)海域の調査研究等に取り組んでいます。今後も地域内外を問わず多くの人々が九十九島に触れ楽しむ中で、自然環境や歴史文化等に対するメッセージを感じることができる施設及び、プログラムづくりを全社的に推進していきます。



組織の沿革

代表者名：本田 克彦
設立： 1990年
所属人数：68名

連絡先

〒858-0922 長崎県佐世保市鹿子前町1055番地
TEL：0956-28-4187
E-mail：sps-1@pearlsea.jp
Web：http://www.pearlsea.jp/

特別賞

体験村・たのはた推進協議会

村の営みが観光資源！通過型から滞在型観光へ

講評

北山崎などでの景観鑑賞を中心とした通過型観光から、自然、歴史および人的資源を活用した体験プログラムによる体験活動を核としたエコツーリズムへの転換の努力およびその実績が評価される。自然環境と共存してきた証人（地元の本物漁師ガイド）等によるプログラム開発や、インストラクター育成を、きちんと安全講習等も含めて実施し、活力の失われつつある農山漁村において、交流人口の拡大を図り、コミュニティを維持していく姿勢は、高く評価される。

活動内容

三陸を代表する景勝地「北山崎」。年間50万人も訪れる観光客のほとんどが通過型でした。もっと田野畑の営みや人の温かさに触れ自然を体感し、印象深い旅を演出したいと感じていました。そして今はサップ船で断崖の迫力と漁師の操船技術を、昔ながらの番屋で海の営みと先人の知恵を、ネイチャートレッキングで希少な植生と自然環境の繋がりを、ベテラン漁師ガイドや地域住民と触れ合いながら案内しています。また、インストラクターもお客様に喜ばれることでやりがいを感じ生きがいとなり、お客様の滞在時間が延びることで宿泊や食事・お土産、三陸鉄道など二次交通への波及効果も顕著になってきています。

組織の沿革

代表者名：道合 勇一
設立：2003年
所属人数：63名

連絡先

〒028-8402
岩手県下閉伊郡田野畑村北山 129-10 北山崎ビジターセンター内
TEL：0194-37-1211 E-mail：taiken-tanohata@car.ocn.ne.jp
Web：http://www.tanohata-taiken.jp/banya_index.html



特別賞

二戸市楽しく美しいまちづくり推進委員会

宝とともに生きる二戸のまちづくり

講評

二戸市の市民と市職員で「楽しく美しいまちづくり推進委員会」を組織し、平成4年に始めた「宝探し」が、今や全国的なブームになっている。このように住民と行政が一体となって地域の宝を掘り起こし、まちづくり活動から出発して、エコツーリズムへと展開している点が、他地域に対するモデルとして評価される。さらに保全を担保する地域独自の取り組みとして、平成12年に「宝を生かしたまちづくり条例」を制定し、ヒメボタル等をはじめとする貴重な動植物の保護にも取り組んでいる。

活動内容

地域社会によって守られてきた巨木、信仰や生活の中で受け継がれてきた伝統行事、先人の知恵の結晶である物産や伝統技術、人々がふれあってきた山や川など、住民が価値あるものとして認めたすべてを宝とし、市民総参加で「宝さがし」を行いました。この宝を生かしたまちづくり計画を策定し、「宝めぐりツアー」などにより市内外に情報を発信してエコツーリズムへとつながる活動を展開しています。

組織の沿革

代表者名：二戸市長 小原 豊明
設立：1992年
所属人数：200名

連絡先

〒028-6101 岩手県二戸市福岡字川又 47
TEL：0195-23-3111
E-mail：m-kudou@city.ninohe.iwate.jp
Web：http://www.city.ninohe.iwate.jp/takara/takara.html



特別賞

裏磐梯エコツーリズム協会

子に孫に残そう豊かなおらがむら

講評

他地域がモデルとしているエコツーリズムカレッジの推進主体であり、モデル事業終了後、住民組織として独立し、活動の継続性が担保されている。住民参加型モニタリングに取り組むなど、保全と活用、地域振興のバランスがとれている点が評価される。エコツーリズムカレッジによる広報・人材育成活動を先行、継続させ、今年度、裏磐梯エコツーリズム協会を設立するなど、単にエコツアーを展開するというのではなく、総合的に展開するとともに、どの段階で何をやるかが、きちんと計画され、着実に進展されている。

活動内容

2007年度、裏磐梯エコツーリズム協会は、環境省のモデル事業で培った「エコツーリズムカレッジ」の継続的な運用を軸に活動を展開し、一応の成果を挙げてきました。2008年度もエコツーリズムカレッジの運用を基本に、さらに「住民参加型モニタリングシステムの試行」「住民説明会の実施」「ポータルサイトの充実」「研究者ネットワークの充実」等に取り組む予定です。本年1月に開催した「新春語り初め」では、参加した地域の人たちの「裏磐梯の将来」に対する熱い思いが聞かれました。こうした1人1人の「熱い思いの実現」を目標として、エコツーリズムの道を一步一步を確実に歩いて行く予定です。

組織の沿革

代表者名：相原 久栄
設立：2007年
所属人数：37個人・団体

連絡先

〒979-2701 福島県耶麻郡北塩原村大字松原字小野川原 1092
裏磐梯サイトステーション内 TEL：0241-23-7860
E-mail：info@eco-urabandai.com
Web：http://www.kitashiobara.com/eco/、http://www.eco-urabandai.com



特別賞

有限会社 リボーン (エコツーリズム・ネットワーク) 旅のプロデューサーがライフスタイルを提案

講評

エコツアーを実施するランドオペレーターとの連携を図り、BDF (バイオディーゼル燃料) で走るエコバスを利用するなど、エコツーリズムに取り組む旅行者のスタイルとして、モデル性がある。訪問先のランドオペレーターの選択においても独自の姿勢を貫き、CSRに熱心な企業とコラボレーションを図るといった点なども評価される。また、エコツーリズムに関わる事業展開が、ビジネスモデルとして成り立つかどうかを、継続的に実証している点も評価に値する。

活動内容

国内エコツアーとしては「CO2 撒き散らして何がエコツアー？」と自他ともに持ってきた疑問に挑戦し、廃食油を回収・精製してBDFに変え、それを再生可能エネルギーとして使用した天ぷら油リサイクルバス (エコバス) を使ったエコツアーを運営し、都市と農山漁村交流にも都心の環境学習にも役立てています。エコツアーとしてはボルネオのホームステイプログラムを組み込んだ、熱帯雨林再生プロジェクト参加ツアーや、ニュージーランドの動植物の固有種保護ツアー、そしてドイツやスウェーデンの環境先進都市でのエコライフ視察ツアーなど、多様な職種の参加者にとってライフスタイルを学ぶ体験ツアーを提供しています。



組織の沿革
代表者名: 志岐 健一郎
設立: 2000年
所属人数: 5名 (非常勤含)

連絡先
〒160-0022 東京都新宿区新宿 2-2-1 ビューシティ新宿御苑 506
TEL: 03-5363-9216
E-mail: info@reborn-japan.com
Web: http://www.reborn-japan.com/



特別賞

高山市乗鞍山麓五色ヶ原の森 飛騨人の心で、五色ヶ原の雄大な森をご案内

講評

市の条例により、一日当たりの入山者数制限と、全て有料のガイド (条例上は「森の案内人」) 同行とすることを可能にし、日本では、先進的な地域事例として評価される。これにより、現在48人のガイドが業務にあたっているが、全員が高山市民 (うち半数が地元住民) であり、雇用機会の増加に貢献している。また、ツアー参加者の大半が宿泊を伴うことから、地域内での宿泊客数の増加も見られている。

活動内容

乗鞍山麓五色ヶ原の森は、北アルプス乗鞍岳の北西側山麓の広大な森林地帯です。この森一帯は、かつての乗鞍岳の火山活動など悠久の時間が形成した大自然が色濃く残されています。この森では「人と自然の共生」を基本理念に、2つのトレッキングコースを設定し、一日当たりの入山者数制限と、全て有料ガイドが同行することを条件化しています。市の委嘱を受けた48人のガイド全員が市民で構成され、「森の案内人」として、おもてなしの心で森の自然や歴史、風土、文化などを紹介し、安全なガイドツアーに努めています。



組織の沿革
代表者名: 高山市長 土野 守
設立: 2004年
所属人数: 50名

連絡先
〒506-2252 岐阜県高山市丹生川町久手 471 番地 3
TEL: 0577-79-2280
E-mail: goshiki2004@themis.ocn.ne.jp
Web: http://www.hida.jp/goshiki/



特別賞

針江生水の郷委員会 人と水が共生する「川端」のある暮らし

講評

地域の生活文化である「川端 (かばた)」と呼ばれる湧き水との関わりを資源として、環境の保全・整備や地域の活性化につなげる工夫が成されている点が評価される。小規模ではあるが、定期的にツアーを実施するまでに至っており、その他にも地域通貨の活用など多様な取り組みが行われている。住民主体の組織として、バランスよく安定感のある活動実績が評価される。

活動内容

設立のきっかけは、2004年1月に針江地区の水辺の暮らしがTV放送されたことに始まります。現在、針江の自然保護と、「針江生水の郷」見学者への接客対応を行っています。主に琵琶湖畔に広がるヨシ群落の雄大な風景と「かばた」を含めて人と自然の共生する日本の数少ない原風景を紹介し、ツアー終了後、ここでしか味わえない「味覚」を提供しています。また、地区住民に対しては、ツアールートを案内することで、住んでいる地域の良さを理解してもらうためのイベント開催など、「かばた」文化の継承とエコツーリズムで地域の活性化を目指しています。



組織の沿革
代表者名: 美濃部武彦
設立: 2004年
所属人数: 70名

連絡先
〒520-1502 滋賀県高島市新旭町針江 554
TEL: 090-3168-8400
E-mail: takamt@yaho.co.jp
Web: http://www.geocities.jp/syouzu2007/



応募団体一覧

取組み分野:

A. ガイダンスの手法 B. 環境保全の取組み C. 地域活性化の取組み D. その他の取組み

都道府県	名称	取組み分野	取組みの概要	実施地域
北海道	ゆっくりずむ北海道	C	「食と自然」をテーマに地域住民とエコツアーを展開。	札幌近郊及び北海道全域
	そうべつエコミュージアム友の会	A.C.D	地域資源の発掘活動や広域連携、人材ネットワーク形成活動。海外の先進事例の調査や発表などを実施。	洞爺湖周辺
	認定NPO 法人霧多布湿原トラスト	A.B.C.D	地元の漁師や酪農家との共同プログラムを催行。イベント等を通じ、都市部との連携も図っている。	霧多布湿原
	NPO 法人 クッチャロ湖エコワーカーズ	B.C.D	地元漁師によるエコツアーを実施。地元民とエコツアー参加者の交流イベントを行っている。	クッチャロ湖および湖畔
青森県	白神自然学校一ツ森校	A.B.C.D	年2回「白神自然学校インストラクター養成講座」を開催。農家レストランを通じ地域の雇用に貢献。	白神山地
	岩崎自然ガイドクラブ (サンタランド白神)	B.C	地元メンバーで構成されるガイドクラブによる登山や自然観察などを催行。	白神山地
	ヒーリングエコツアー PRO ガイド	A.B.C.D	学校のカリキュラムに沿った「解説マニュアル」を作成。隣接地の宿泊施設と連携して、白神山地を中心に事業展開を図っている。	白神山地
岩手県	NPO 法人体験村・たのはたネットワーク(予定)(旧:体験村・たのはた推進協議会)	A.C	通過型観光から、体験型観光への転換。地元住人がインストラクターとして活動。	岩手県田野畑村
	二戸市楽しく美しいまちづくり推進委員会	A.B.C.D	市民と市職員で「楽しく美しいまちづくり推進委員会」を組織。雑穀や漆、町並、歴史等を活用した地域づくりに取り組んでいる。	岩手県二戸市
山形県	暮らし考房	B.C.D	体験学習の森を設置。市民参加の森作り体験を行う。「宿泊はホテル、体験は地域」の金山型ツーリズムを確立。	山形県金山町
福島県	裏磐梯エコツーリズム協会	B.C	環境保全に関する意識の普及、仕組みづくりなどに着手。住民参加の元に、エコツーリズムカレッジを開校。	裏磐梯
栃木県	星ふる学校「くまの木」(特定非営利活動法人 旧熊ノ木小学校管理組合)	B.C	「くまの木」の裏山に「再生・里山作り計画」を開始。「くまの木自然クラブ」を組織化。	栃木県塩谷町
千葉県	佐倉インタープリター(SIP)	A.B.C.D	印旛沼を中心に活動。エコツーリズムの担い手育成事業の実施。JRとの連携によるエコツアーの実施。	千葉県佐倉市および印旛沼
東京都	アミューストラベル株式会社	A.B.C.D	歩くことを柱にし、エンターティメント性を大切にしている。現地連泊の滞在型で、現地ガイドを積極的に採用している。	日本および海外
	特定非営利活動法人 八丈島観光レクリエーション研究会	A.B.C	自然公園内での観察地は2箇所限定し、踏圧防止のチップ利用や木道利用を行っている。また、低公害バスを導入。	八丈島
	有限会社 リボン	A.B.C.D	セミナー開催、マスメディアへの執筆、出演を積極的に実行し、エコツーリズムの啓蒙を行っている。	日本および海外
新潟県	越後田舎体験推進協議会	A.C.D	各地区ごとに協議会を組織し、地区別での学習・研修を積極的に実施し地域活性化の一旦をになっている。	新潟県上越市および十日町市
石川県	いしかわ自然学校	A.B.C.D	プログラムを通じて自然環境の大切さを伝える。下草刈り、枝打ち、間伐、人里植物の除去、外来種駆除、調査的活動等。	石川県全域
	加賀市観光協会・加賀市観光情報センター	C.D	住民主体の「観光ボランティア大学」によるガイド育成が順調に進んでいる。	石川県加賀市
福井県	小原ECOプロジェクト	A.B.C.D	全てのエコツアーに、地元住民が参画しており、新たなコミュニティ構築や雇用の発生などを促している。	福井県勝山市
	若狭・三方五湖 まるかじりツーリズム	C	農業、漁業、市民活動団体といった異分野の力を合わせて、地域の活性化に繋げている。	三方五湖 若狭湾常神半島など
山梨県	NPO 法人 富士山自然学校	A.B.C.D	富士山北麓環境ネットワークを設立し青木ヶ原樹海等のエコツアーガイドラインを普及。	富士山周辺
	富士山登山学校ごうりき	A.B.C.D	不法投棄の監視及び清掃活動。参加費の中から環境負担金を拠出。地元の学校で「富士山学」講演活動。	富士山周辺

応募団体一覧

取組み分野:

A. ガイダンスの手法 B. 環境保全の取組み C. 地域活性化の取組み D. その他の取組み

都道府県	名称	取組み分野	取組みの概要	実施地域
長野県	特定非営利活動法人霧ヶ峰基金	B.C	活動の収益を「霧ヶ峰基金」という形で霧ヶ峰の環境保全に役立てている。	霧ヶ峰高原
	大平宿をのこす会	D	歴史ある民家を「利用して保存する」という方式で保全管理を行う。	長野県飯田市
	ナショナルパークガイド	A.B.C.D	外来植物調査や投げ銭拾い活動をプログラム化。紙媒体を極力使わずに、PCや携帯に向けて情報発信。	上高地
	特定非営利活動法人グリーンウッド自然体験教育センター	B.C	村内の様々な人材の得意分野を登録して人材バンク化。他の市民団体等と連携して、様々なプログラムを提供。	長野県泰阜村
	NPO 地域づくり工房	A.B.C	ミニ水力発電の普及、なたねオイルとバイオ軽油の生産・普及の実施。	長野県大町市
	信州・信濃町癒しの森事業推進委員会	C	癒しの森の宿として36軒が認定。住民主導型で行政はバックアップ。住民の健康にまで森林療法を普及。	長野県信濃町
岐阜県	NPO 法人 白川郷自然共生フォーラム	B.C	「ツキノワグマの生息調査」「多様なテーマの森づくり」など。「白川村グリーンマップ作成」「合掌集落ガイド制度化支援」などの実施。	岐阜県白川村
	高山市乗鞍山麓五色ヶ原の森	A.B.C	ガイド48名全員が高島市民で、24名は地元丹生川地域出身。ツアー参加者は、宿泊を伴うことが多く、地域への経済波及効果がある。	岐阜県高山市
静岡県	みやこだ自然学校	A.B.D	自然に暮らす体験プログラムや、旬の食や伝統行事を取り入れたプログラム、クラフト体験など。	静岡県浜松市
	伊東市健康保養地づくり実行委員会	B.C	エコウォーク事業を通して、自然の大切さや環境への意識を向上させ、クリーンアップ活動（ゴミ拾い）も行う。	静岡県伊東市
三重県	三重県観光開発株式会社	A	四季の観察会を通じ地域の親子が自然に親しむ機会を設ける。	三重県全域
	NPO 法人 大杉谷自然学校	A.B.C	自然災害地をツアーするルールを策定。災害後の森林整備活動に積極的に参加、植樹等も行う。	吉野熊野国立公園
	紀南ツアーデザインセンター	A.B.C	理念に基づいたツアーを実施する事で、地域の自然・文化が評価され、地域に誇りが生まれ、自立的環境保全に結びつく。	紀南・熊野地域
	海島遊民くらぶ（有限会社 オズ）	A.B.C.D	島民の生活圏へ入る際のルールなどをガイディングに取り込み、これらがお客様に意味深く楽しくなるよう企画する。	三重県鳥羽市
滋賀県	針江生水の郷委員会	A.B.C.D	「かばた」文化を次世代に継承する活動と、それを全国に発信する活動を行っている。	滋賀県高島市
	有限会社 地域観光プロデュースセンター	C.D	「人間と自然の共生」と「エコツーリズム」を織り交ぜ、人々の地域間交流を盛んにすることを事業テーマに取り組んでいる。	滋賀県全域
	マキノ里湖体験ツアー協議会	A.B.C	地域での環境保全意識、伝統文化の継承意識の高揚。月いちのモニタリング調査の実施。	滋賀県高島市
京都府	京丹後市丹後半島森林公園内体験交流宿泊施設「風のがっこう京都」	A.B.C.D	「森は魚を育てる」をテーマに、人工林の間伐・広葉樹の植栽等のボランティア活動を行っている。	丹後半島
大阪府	西淀自然文化協会	A.B.C	ボランティア活動を進める上での協力・連携がとれ、課題解決に向けた交流を図る。	大阪湾岸域、淀川流域圏
兵庫県	六甲摩耶鉄道株式会社	B.C.D	ガイド育成に力をいれ、自然文化歴史の車内放送を実施し、社を挙げて、地域活性化の中心的役割を果たす。	六甲地域
和歌山県	民宿ひらい	B.C	「かもい造り」という建て方のかまどのある昔の農家をそのまま利用。30種以上の田舎体験・自然体験を提供	和歌山県紀美野町
	株式会社 串本海中公園センター	A.B.C.D	水族館事業の運営による地域観光拠点の提供。小学生への環境教育。大学生等の実習受入れ。	串本海中公園地区
	南紀わかやまアウトドアフェスティバル実行委員会	B.C.D	地域間を超えた提携協力ネットワークにより、修学旅行等の受入体制の作りやすさが生まれている。	南紀地域
	北山村	A.C	観光筏下りは、年間6000人の利用があり、「じゃばら」と呼ばれる特産物の売上にも一役買っている。	和歌山県北山村

都道府県	名称	取組み分野	取組みの概要	実施地域
和歌山県	特定非営利活動法人 自然回復を試みる会 ビオトープ孟子	A.B.C	0.1haの放置田を借用して作ったとんぼ池から始まり、水田・畑地の復活まで、「里山」環境の保全を行っています	和歌山県海南市
鳥取県	大山・中海・隠岐 エコツーリズム協議会	A.B.C.D	エコツーリズムの担い手育成。鳥取県、地域8市町村、それに6観光協議会等を巻きこんだエコツーリズムの総合的推進。	鳥取県西部から 島根県隠岐
島根県	財団法人 三瓶 フィールドミュージアム財団	B.C	毎週日曜に「北の原お散歩ツアー」を実施。各種イベントを通じ地元の物産を紹介。	三瓶山周辺
高知県	海癒	A.B.C	エコツアーの基礎整備。ネットワーク構築。メニュー開発。インストラクター養成講座。	高知県土佐清水市
長崎県	特定非営利活動法人 体験観光ネットワーク 松浦体験型旅行協議会	A.B.C.D	年間60回を超えるインストラクター講習会の実施、事故に備えた賠償責任保険への加入。	松浦市、平戸市、 佐世保市、鹿町町
	(有) 対馬エコツアー	A.C	自然美を体感しつつ、島に刻まれた歴史を楽しんでもらう為、安全管理、満足度、地域住民及び自然環境への配慮を行っている。	対馬 浅茅湾
	させぼパール・シー 株式会社	A.B.C.D	先ず調査、研究を行い、保護を前提にプログラムを開発。ツアー参加者のみならず、漁業従事者の安全にも配慮。	西海国立公園 九十九島
熊本県	野外教育研究所 IOE	A.B.C.D	「阿蘇エコツーリズム」を提案し、エコロジーとエコノミーが両立する「環境地域づくり」を目指す。	阿蘇
	阿蘇自然案内人協会	A.B.C.D	継続的なフィールド観察に基づくモニタリングやオーバーユース調査を実施。	阿蘇
宮崎県	特定非営利活動法人 五ヶ瀬自然学校	B.C.D	本格的ログハウススクール開校で、林業衰退で放置されてきた五ヶ瀬杉の山の保全を図る。	宮崎県五ヶ瀬町
鹿児島県	Earthly Company (アースリーカンパニー)	A.B.C.D	バンディングを含む鳥類調査への協力。地杉を利用し、可能な限り自然エネルギーを利用したセミナーハウスの利用。	屋久島
	(有) 屋久島野外活動 総合センター	A.B.C	ただ遊ぶだけでなく、自然をより深く理解し、素晴らしさを体感し、忘れかけている自然観を呼び覚ますようなプログラムの開発。	屋久島
沖縄県	特定非営利活動法人南大東	B.C.D	特異な自然と特異な歴史の中に、力強い南大東島の宝があることを発見している。	南大東島
	エコガイドカフェ	A.B	エコランチ、エコ燃料、タクシー、船長、ダイビング船など、温暖化対策を考慮しつつ、島内の素材と人材で、ツアーを構成。	宮古島
	沖縄体験ニライカナイ (旧：沖縄体験学習研究会ニライカナイ)	A.B.C.D	環境保護に意識付けが出来る教育効果の高いプログラム作り。地元の間人が誇りと自信を持てるプログラムづくり。	恩納村、宜野座村、 うるま市



「第4回エコツーリズム大賞」募集のご案内

「第4回エコツーリズム大賞」の募集を2008年夏頃に行います。

募集対象

●エコツーリズムへの優れた取り組み事例を募集します

取り組みの例

- ・地域におけるエコツーリズム推進団体の設立と運営
- ・保全利用協定やガイドラインなどのルールづくりやその継続
- ・農業体験や校外学習などと連携したエコツアーの実践
- ・環境への配慮や環境保全への貢献
- ・エコツアー等の情報提供のしくみ
- ・環境保全や地域振興への観光収益の還元システムづくり
- ・エコツアーにおけるゴミの削減や環境負荷の低減
- ・エコツアーのマーケティングや斡旋などを含めたエコツアー事業の運営など

賞および表彰

●エコツーリズム大賞(1点)、エコツーリズム優秀賞と特別賞各数点を予定しています

*受賞者には表彰状と副賞を授与します。

応募資格

1. エコツーリズムに取り組む各種団体(事業者、企業、地方自治体、地域のグループ等)
2. 経験年数、法人格の有無、種類を問いません。
3. 自薦・他薦の別を問いません。
4. 過去のエコツーリズム大賞受賞者も応募資格があります。

募集時期

2008年夏頃予定。詳細は環境省ホームページでご案内する予定です(<http://www.env.go.jp>)

審査

エコツーリズム大賞審査委員会において各賞を選定し、環境大臣が決定します。
決定後受賞者に通知し、表彰式を行います。



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

発行日：2008年3月

発行：環境省自然環境局総務課自然ふれあい推進室

〒100-8975 東京都千代田区霞が関1-2-2

TEL：03-3581-3351 FAX：03-3508-9278

<http://www.env.go.jp/>

制作協力：NPO法人日本エコツーリズム協会 Japan Ecotourism Society (JES)



ソイインキを使用しています